

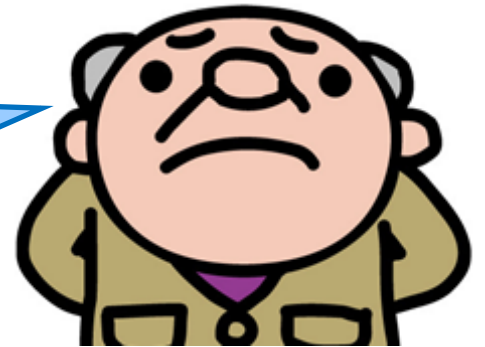
本人の情報

松戸太郎さん 78才 男性

胃がん(進行がん)手術後

- 2年前、進行胃がんに対し胃を部分的に切除した。
- 手術後にせん妄を生じ大騒ぎをしたという。
- 退院時には「二度と入院したくない」と言っていたという。

二度と入院したくない



家族の情報

76才の妻と2人暮らし

- 妻は時折物忘れがみられるものの、日常の家事等を行えている。
- こどもは娘1人。
夫、こども2人(中学生、小学生)と一緒に市内に在住。
- 娘は平日の午前中は毎日パート勤務があり、午後なら両親宅を訪れることが可能とのこと。



在宅療養開始までの経緯

- 1年前に肝転移を指摘されるも、治療適応なしと判断され無治療経過観察中。
- 6か月前に胸部痛があり、多発骨転移と診断。鎮痛剤(NSAIDs)を処方されていた。
- ADLは屋内ほぼ自立。単独での屋外歩行は転倒の危険もあり行っていない。
- 最近、臥床している時間が多くなっている。

訪問診療導入時の状況

- 介護度： 要介護1
- 認知機能：軽度の物忘れあり
(改訂長谷川式簡易知能評価スケール 19点)
- 住居： エレベーターのない団地の3階
- 病状説明：妻と娘へは多発肝転移の進行が著しく、予後2～3か月と言われた。



訪問診療開始～1ヶ月間

- 症状：右側胸部の痛み
全身のだるさ
食欲がない

医療用麻薬が処方されたが・・・



- 新たな困りごと：
薬の飲み忘れがある
頓服薬をいつ飲んだか分からない

現在の処方内容

オキシコンチン(5mg)	4錠	2×(9時、21時)	医療用麻薬
ロキソニン(60mg)	3錠	3×(朝、昼、夕)	鎮痛薬
タケプロンOD(15mg)	1錠	1×(夕)	胃薬
マグミット(250mg)	6錠	3×(朝、昼、夕)	緩下剤
アムロジン(5mg)	1錠	1×(朝)	降圧剤
バイアスピリン(100mg)	1錠	1×(朝)	抗血小板剤
シグマート(5mg)	3錠	3×(朝、昼、夕)	狭心症治療薬
ザイロリック(100mg)	1錠	1×(朝)	痛風治療薬
オキノーム(2.5mg)	1包	疼痛時頓服	

グループワーク ①

今後起こりうる病態やその対処方法について
医師を中心に話し合ってください

司会：医師

予測される臨床経過や注意点、ご家族の状況を
ふまえて、ケア方針について話し合ってください

司会：ケアマネジャー

1ヶ月後・・・

- 突然両下肢に麻痺を発症し、紹介元病院に再入院となった。
- 腰椎への転移と診断され放射線治療を行ったが、麻痺は残った。
- 神経へのダメージで排尿障害となり、尿道カテーテル留置となった。
- 自力での排便も困難になった。
- 仙骨部には皮下組織に及ぶ褥瘡を生じた。



退院時の様子



- 夜になるとせん妄症状がみられ、妻の名前を繰り返して叫ぶようになったため、急ぎよ在宅に復帰することになった。
- せん妄が強い時、病院ではセレネース1/2筒を筋注していた。
- 車いす座位で食事は摂取しているが、むせることが多く、ミキサー食としていた。

退院時の家族の思い

■ 妻

「退院させてあげたいけれど、管もついているし、
こんな状態で大丈夫かね・・・」

「お粥さんや好きなものを食べさせてあげたい」

■ 娘

「介護をする母の持病の腰痛が悪化しないか心配」

「中学生の娘も受験を控えているから、これ以上
訪問時間は増やせない」



母の腰痛が悪くならないか心配

その後の様子

- せん妄は自宅では大きな問題にはならなかった。
- 食事量は徐々に減って、やせてきた。
- 辛いところがあるか問うと首を横に振っていた。

妻 「こんなに痩せて食べなくて大丈夫かね」

「お父さんはもう病院は嫌だと思う」



娘 「母も疲れてきているみたい……」



グループワーク ②

退院後の家族負担の軽減策について
ケアマネジャーを中心に話し合ってください

司会：ケアマネジャー

看取りについての意思決定に関わる支援や
治療ケア上の工夫について話し合ってください

司会：訪問看護師